

第 85 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた
株式会社オプテージへの追加質問及び回答
(モバイル接続料の検証関係)

問 前回会議で示された KDDI の予測値と実績値の大きな乖離について、KDDI の説明について、どのように考えるか、また、予測値と実績値の乖離を縮小するため、また予見性を高めるためには、接続元事業者においてどのような対応が有効と考えられるか、コメント頂きたい。

(佐藤構成員)

(オプテージ回答)

- 前回会合で示された KDDI 殿のご説明につきまして、2022 年度は 2021 年度と比較して予測値と実績値の乖離率が拡大したものの今後は乖離率が改善する見込みであると理解しておりますが、具体的にどのような対応によって改善が見込まれるのかについて、弊社としては理解が及んでいない状況でございます。
- 接続元事業者である MVNO 各社においては、予測値と実績値の乖離の縮小のために、需要予測等について合理的な算定等を実施いただくとともに、MVNO の予見可能性を高める観点から、需要等について今後の傾向が分かる情報等を示していただくことが有効ではないかと考えております。
なお、現状、MVNO に提示されている定量的な数値としては、予測値と予測値の差異等に関する需要・費用・利潤の乖離割合（需要●%、原価●%、利潤●%など）等であり、接続料に対して各項目がどの程度の影響を与えるものなのか、また、後年度にどのような傾向が見られるのか把握等ができない状況と考えております。
この点、予見可能性や納得性を確保するためには、需要・費用・利潤の各項目について接続料に対する影響度合いや、需要をはじめとする各項目の今後の傾向が予測できる定量的な情報を示していただくことが有効ではないかと考えております。

以上